

## 令和7年度 名取市地域学校協働活動運営委員会概要記録

|          |  |
|----------|--|
| ○日時      | 令和7年8月6日（水）午後1時30分より   |
| ○場所      | 法務局名取出張所2階 第4会議室   |
| ○出席者（7名） | 峯岸寛仁委員、佐々木泉委員、今野むつ子委員、五十嵐誓委員<br>伊藤宗男委員、小沢静子委員、洞口のり子委員  |
| ○欠席者（2名） | 小沼貴昭委員、矢澤ユキ江委員   |
| ○事務局出席者  | 教育委員会 教育長 瀧澤 信雄<br>教育部長 山家 ちとせ<br>生涯学習課 課長 佐々木 賢一<br>〃 課長補佐兼生涯学習・青少年係長 熊谷 恵美<br>〃 社会教育主事 隈川 貴文 |
| ○傍聴人     | なし   |

### 会議概要

#### 1 開会 進行：熊谷補佐 13:30～

##### 会議の成立確認

名取市地域学校運営委員会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し、会議成立を宣言した。

##### 会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨を告げた。傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

#### 2 あいさつ

##### 瀧澤教育長

皆様には、それぞれのお立場から、社会教育生涯学習全般にわたってご指導ご助願いただいていることに、感謝申し上げる。

地域協働活動は、取り組みから7年目になる。現在15学校全てに本部があるが、今年は全ての学校に本部が設置されてから4年目になる。当初は、どちらかというと学校支援とかボランティア的な活動が多くったように感じている。それは今も続けていただきており学校も非常に助かっているが、その中から地域学校協働の本来の目的である、学校、親、地域が全体で子どもの成長や学びを支えるということを通して地域づくりを目指していく、そういう狙いの活動をたくさんやっていただいている。

例えば、体験活動、様々な学び、文化芸術の継承などの取り組みも行っている。そういった中で樹取り舞保存会が二十年ぐらい前から増田西小学校で子どもたちに樹取り舞の指導をしているが、その功績が認められて、今年度、県の教育委員から協働教育推進功績表彰を授与された。その他にも花町神楽では、地域の方が学校に出向いて、指導していただいている。このように協働本部毎に特色ある活動を展開してきている。また、学校運営協議会を去年から館腰小でモデル的に取り組み、来年度以降、他の学校への展開も考えているところである。そういった諸々の今後の地域学校協働活動のあり方なども含めて、委員の皆さまからは、忌憚のないご意見ご助言を頂戴したいと思っている。

### 3 自己紹介

事務局、委員の順で自己紹介を行った。

### 4 委員長・副委員長選出

#### 事務局（熊谷補佐）

続いて委員長の選出を行う。名取市地域学校協働活動運営委員会設置要綱第5条の規定により委員長副委員長は互選とする。委員長選出までの議事を教育長の瀧澤が務める。

#### 瀧澤教育長

それでは、委員長が決まるまでの間、暫時委員長を務めさせていただく。今事務局からあったように互選で選出するということになっているが、いかがか。

#### 委員

事務局に一任する。

#### 瀧澤教育長

事務局案を示させていただいてよろしいか。事務局案をお願いする。

#### 事務局（熊谷補佐）

事務局の方からは委員長を伊藤様に。副委員長を峯岸様にお願いしたい。

#### 瀧澤教育長

委員長に伊藤宗男委員、副委員長に峯岸委員という事務局案だったが、皆さんよろしいか。

#### 事務局（熊谷補佐）

では、ここからの進行については、伊藤委員長にお願いしたい。

### 5 協議・報告事項

#### (1) 令和6年度事業について

#### 伊藤委員長

それでは、協議・報告に入る。令和6年度の事業について、事務局から報告をいただきたい。

#### 隈川社教主事

(昨年度の地域学校協働活動の様子を収めた写真をテレビに投影した。)

実際には、もっとたくさんの事業が各地で行われており、各本部が地域の特色に合った活動を展開している。今年の特徴は、他の本部で行われている事業を取り入れた活動の様子が見られた。

#### 伊藤委員長

令和6年度の事業の様子について事務局から報告があったが、委員の皆さんのが感想をお聞かせ願いたい。

#### 洞口委員

毎年この委員会に参加させていただいているが、毎年活動が発展していってることがよく分かった。

#### 五十嵐委員

多彩な活動が展開されていることが分かった。特に公民館と学校の連携ができていることが特徴だと感じた。

#### 峯岸委員

現場から感じるのは、子どものニーズに合わせていただいているということ。ありがたいと感じる。

#### 今野委員

私の住んでいる館腰地区では、様々な団体が学校に関わる様子が見て取れる。地区の人たちが楽しんでいることも分かる。そういったことが地域力の向上につながっているのではないだろうか。

### (2) 令和7年度の名取市地域学校協働活動の取組について

#### 伊藤委員長

続いて昨年度の振り返りについて、事務局より報告願いたい。

#### 隈川社教主事

(資料を用いて説明を行った。)

では、昨年度の事業について、協働本部、公民館、学校へ向けて実施したアンケート結果をもとに説明を行う。

いずれの結果を見ても「子どもの体験活動の充実」において成果が見られた。また、「子どもの豊かな心の育成」、「継続的な学校支援体制の整備」に関しても成果が見られた。反面、「地域づくりの担い手の育成」においては大きな成果は見られなかった。地域学校協働活動に関する名取市の状況調査の結果からは、「運動意欲」、「生徒指導」の項目以外に関して、いずれも効果を実感しているという結果が出ている。

特に「地域への理解・関心」という項目では、全ての学校において効果を実感しているという結果となった。

次は名取の「市民意識調査」の抜粋からであるが、「あなたは地域学校協働活動をご存じですか」という問い合わせに対して「知らない」と回答した人全体の6割を超えた。また、「あなたは地域学校協働活動に参加したいと思いますか」という問い合わせに関しては、「参加たくない」と答えた人の割合は全体の3割弱という結果となった。さらに約半数の人が「わからない」と回答した。

この調査は、当時の18歳以上を対象にしたものである。当時の18歳以上は、当然地域学校協働活動というものを小学校・中学校時代に経験した世代ではないので、そのことも結果に影響しているのではないかと考えられる。

### 伊藤委員長

ただ今の説明について、皆さんから意見や質問はあるか。

### 今野委員

地域学校協働活動を知らない人が6割を超えるという、名取の「市民意識調査」の結果に驚いた。活動を続けていけば、認知度は上がっていくのではないかと感じる。

### 佐々木委員

今まで以上に、学校、PTA、地域学校協働本部の関わりが重要になってくると感じる。

### 五十嵐委員

アンケートの結果を見ると、「成果を感じられない」という答えが目立っていたように感じる。地域、学校、公民館などで考えを共有していくことがますます必要になっているのかもしれない。

私の勤めている大学の学生を見ていると、昔からのコミュニティが残っている地域だと、学生の社会参加の意識が高いように感じる。名取市は様々な地域があるので、そういったこともアンケート結果に関係しているのではないか。

## (3) 本部の在り方について

### 伊藤委員長

続いて本部の在り方について事務局から説明願いたい。

### 隈川社教主事

(資料を用いて説明を行った。)

昨年度、本部の運営方法について、学校、公民館、本部の意見を伺った。公民館を本部とする意見や学校に本部を置くという意見もあったが、様々な意見を踏まえ、教育委員会としては、現段階で一つの方法に統一することは難しいので、地域に合わせたやり方でやっていくのがいいという結論になり、昨年度、本委員会でも了承された。

### 伊藤委員長

何か質問があればお願いしたい。

### 佐々木委員

地域によって活動も違えば、コーディネーターの人数も異なるのでその方が良い。

## (4) 館腰小学校コミュニティ・スクールについて

### 伊藤委員長

それでは、館腰小学校のコミュニティ・スクールについて事務局から説明願いたい。

### 隈川社教主事

今年度もすでに2回の協議会が行われた。先日行われた協議会では、「学校支援計画について」というテーマで熟議が行われた。

学校側から学年別に様々な希望が出されており、協議会委員は子どもたちの力になろうと話し合いをする様子が見られた。

### 伊藤委員長

何か質問があればお願いしたい。

### 峯岸委員

館腰小学校運営協議会の委員の人数とどのような方が役職をされているのか教えていただきたい。

### 瀧澤教育長

尚絅学院大学の先生も一人入っており、他には、地域の団体の代表の方で構成されている。また、名取市では校長も委員に入る形をとっている。委員の方には、地域で一緒にになってやっていこうという思いがある。雷神山山道に関しても熱意を持って取り組んでいる方が多い。

館腰小の一年半の取組から成果と課題を明らかにしていくことで、他の学校ではどのようにしていくかの方針を出していかなければならない。

### 山家部長

委員の人数に関してだが、15名である。地域の住民の方、児童生徒の保護者の方、地域学校協働活動の推進委員、校長などで構成されている。

### 伊藤委員長

協議会の方から、教育委員委員会に意見というものは来るのか。

### 瀧澤教育長

国で定めたコミュニティ・スクールの役割の中に、教職員の人事に関する事とある。しかし、館腰小学校からはそういう話は聞いていない。

活動予算が欲しいという話はあった。だが、あくまでコミュニティ・スクールは話し合いの場であり、実際の活動の場は地域学校協働活動などである。しかし、実際に地域

の思いを具現化するためにも検討していかなければいけないのかもしれない。

**伊藤委員長**

今後、他の学校へ説明をしてコミュニティ・スクールを具現化する計画についてはどうなのか。

**瀧澤教育長**

全ての学校に一斉に取り入れる方法や中学校単位で取り入れる方法がある。しかし、あまり性急に進めすぎると学校の体制が整わないままになり形骸化してしまう恐れがある。おそらく段階的に進めていくことになるだろうが、そこも今後検討していく必要がある。

**五十嵐委員**

学校運営協議会が始ってから、PTA や学校評議員の立ち位置がどうなったのか教えていただきたい。

**瀧澤教育長**

館腰小については、学校評議員制度はなし。PTA などの既存の組織はそのまま継続している。その中で各代表者が学校運営協議会に参加している。なので、組織そのものが変わったというのは学校評議会くらいである。

**伊藤委員長**

他に質問がなければ以上とする。進行を事務局にお返しする。

**6 閉会**

**事務局（熊谷補佐）**

以上で、令和 7 年度第 1 回地域学校協働活動運営委員会を閉会する。

次回は 12 月 17 日か 18 日を予定している。

**14：40 終了**